

# 多文化共生のまち福島 推進アクションガイド

2020年（令和2年）8月 福島県福島市

多文化共生とは、様々な国籍や言語、文化、宗教、そして慣習の違いがあることを理解し、それぞれが自立しながら協力し合って生活することです。ここ福島市が、多文化共生を進める“市民一人ひとりがお互いに認め合う、多様性を尊重したまち”となることを目指して、すべての市民、企業、団体、関係機関のみなさんとともに次のアクションに取り組みます。

※詳しくは、「多文化共生のまち福島推進指針」もご覧ください。

## Action 1

ともに地域社会の一員として、思いやりの気持ちをもって相手の文化を理解し、尊重し合いましょう。

【推進指針・施策目標1 関連】

- CASE1：異なる文化があることを進んで理解し、外国人とともに協力して福島を盛り上げましょう。
- CASE2：福島が外国人にとっても活躍でき、活気あるまちになるよう協力して行動しましょう。
- CASE3：誰もが福島に愛着や誇りを持ち、ともに暮らす仲間として地域の絆を育みましょう。

## Action 2

誰でも不安なく暮らせるように、わかりやすく情報を提供しましょう。

【推進指針・施策目標2 関連】

- CASE1：外国人にも、一目で内容が分かる案内や表示なのか見直してみましょう。
- CASE2：日ごろから外国人にとっても親切な案内になっているのか考えてみましょう。
- CASE3：外国人にも簡単に手に入りやすい方法での案内に、積極的に取り組みましょう。

## Action 3

誰でも自分の考えを正しく伝え合える社会にしましょう。

【推進指針・施策目標3 関連】

- CASE1：日本語を学びたい人が十分に学べる環境づくりに努めましょう。
- CASE2：子どもの頃から世界に触れられる活動に取り組みましょう。
- CASE3：外国人が困った時にも声をかけ、助け合えるグループづくりをみんなですすすめましょう。

## Action 4

誰にとっても安全で安心できる生活環境をつくりましょう。

【推進指針・施策目標4 関連】

- CASE1：知りたい事が知りたい時に、外国人にも伝わる環境をつくりましょう。
- CASE2：市民の温かいおもてなしの心を大事に育てましょう。
- CASE3：外国人の気持ちになって、住みやすいやさしいまちづくりをみんなですすすめましょう。

## Action 5

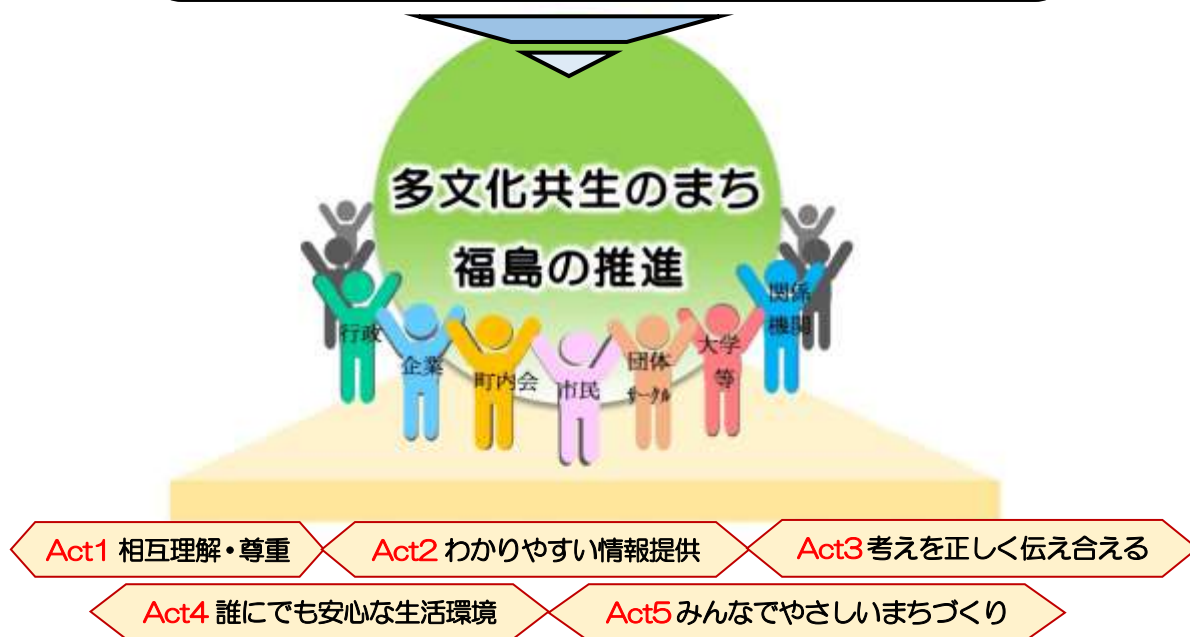
世界に誇れる誰にでもやさしいまちになるように、みんなで協力して取り組みましょう。

【推進指針：施策目標5・6 関連】

- CASE1：世界に目を向けた活動や国際人の育成に取り組みましょう。
- CASE2：誰にでもやさしいまちとなるように、身近な生活上の課題を知り、その解決に努めましょう。
- CASE3：多文化共生についてみんなで考え、ともに協力して取り組んでいきましょう。

## 1. 多文化共生のまち福島 推進のイメージ図

目指すべき姿：“市民一人ひとりがお互いに認め合う、多様性を尊重したまち”



## 2. 多文化共生の担い手として期待される主な取り組み

- (1) 市民  
【日本人市民】 困っている外国人を見かけたら、笑顔で声をかけをしましょう。  
【取組例】 地域行事への参加呼びかけ、国際理解講座・交流イベントへの参加、等  
【外国人市民】 日本文化や慣習などを進んで学び、地域行事にも積極的に参加しましょう。  
【取組例】 各種講習会へ参加、町内会への加入、お祭りなど地域行事への参加、等
- (2) 町内会 地域の一員として、町内会への加入を呼びかけ、一緒に活動しましょう。  
【取組例】 町内会の加入呼びかけ、地域情報の提供、やさしい日本語の活用、等
- (3) 団体・サークル 外国人にも加入を呼びかけ、お互いに支援や交流の輪を広げましょう。  
【取組例】 外国人への団体加入呼びかけ、外国人会員への日本文化紹介、等
- (4) 企業 外国人労働者も活躍できる、働きやすい職場環境をつくりましょう。  
【取組例】 企業内講習会の開催、多言語表示、生活相談・支援、等
- (5) 大学等 国際的に活躍できる人材の育成と、地域への人材定着に取り組みましょう。  
【取組例】 生活相談・支援、国際交流イベントの参加声かけ、地域情報の提供、等
- (6) 行政（市） 外国人受入れの最前線として、積極的に相談や情報提供に努めましょう。  
【取組例】 生活相談窓口の開設、やさしい日本語やピクトグラムを導入推進、等
- (7) 関係機関（国・県等） 外国人との多文化共生社会の実現に向けて、みんなで協力しましょう。  
【取組例】 情報共有のためのネットワーク会議の開催、等